

新型コロナ「5類」移行・要注意しよう!!

2020年1月15日、日本最初の感染者が確認された後、5月12日までに46都道府県において合計15,854人の感染者668人の死亡者が確認された。

そして福島県においては、3月7日に事例1の感染者が判明(70代男性)、以来2例目が3月14日、3・4例目が3月31日に発生されたことが報じられている。そして今般5月8日以降、新型コロナが2類から5類に移行に伴い、長期にわたった毎日の感染発生速報を県民は見る事ができなくなつた。

これまで福島県は前日に確認された新型コロナ感染者を翌日に公表し、それを受けて地方報道機関が報じることになっていた。しかし「5類」に引き下げられたことから今後は毎週水曜日に公表することに切り替えることになり、5月8日、内堀福島県知事から次のメッセージが発せられている。

「個人の皆さん、事業者の皆さんの主体的な選択が尊重されることになりましたので、日々の自主的な感染対策、日ごろの備え、そして特に体調の管理を県民の皆様にお願ひしていききたいと思ひます」。

「コロナは流行繰り返す

これまでは、厚生労働省は専門家を含む対策推進本部が設け、専門的知見に基づいて対策を立案する方たちがとられてきた。その専門委員である数理モデル分析をもつて政策判断を試みる西浦博北海道大教授が提起する「警鐘」を紹介したい。

「データを分析する立場から言えば、人口全体の中で自然感染していない高齢者が半分以上いる今の日本のような状況では、いまだ大きな反

動が予想され第9波が想定されます。過去最大の流行をきっかけに『これまでの対策はなんだったんだ』と思うぐらい死者が出る可能性さえあるのです。そのようなリスクに、国がもつと十分に対応するだろうと思ひましたがそうはなつていません。

対策を緩めると、自粛していた高齢者や療養型の病院で寝たきりの人、高齢者施設に入所している人がこれまでと比較できないぐらい感染することにつながり、死亡すると考えられます。その人たちの命を守るにはポリウム対策がまだ必要です。人口全体で起る感染の広がりを止める対策を、低いレベルでも続けながら緩和しないと流行に歯止めがかからなくなります。

これまでは国が責任を持つて制御する感染症でしたが、これからは流行状況によって出かけることを控えるとか、三密を避けるとかの判断はすべて個人に委ねられます。

さらに5類化に伴い、データの取得やリスク評価の体制は大きく変わります。例えば、感染者数は指定された医療機関のみで数える「定点把握」になります。しかも日々その実態を知ることができません。厚生省が病床の占有率を把握しているシステムにもアクセスができません。医療体制の監視が大切であるにも関わらずそれができなくなります。「第九の波の危険はあるということ」です。

「「コロナは流行繰り返す」西浦博氏が
鳴らす警鐘・毎日新聞5月4日より」

【速報】

新型コロナ新たに143人に感染

福島県内では2023年5月7日、新たに143人に新型コロナウイルスの感染が確認されました。

■保健所方部別

(8日午前10時、福島県まとめ)

会津22人・いわき市21人
郡山市17人・福島市15人・県北11人・
県南11人・相双13人・県中3人・
南会津1人
県陽性者登録センター29人

■療養状況

確保病床への入院63人

病床使用率8.2%

宿泊療養9人

前の週の同じ曜日より、72人増加しました。



気づいたこと・感じたこと

ハートネットTV・忘れじの大熊町!!

「帰りたい」「帰らない」「帰れない」・・・今なお
 気持ち揺らぎながらも12回目のその日を迎えた方もいらつしやると思います。東日本大震災の地震、津波、そして東京電力第一原発の水素爆発と、それによる放射能から逃れた「大熊町の住民」の皆さん。とりわけ、避難の地を転々とし取り残された高齢者の皆さんの「終わりの住処」を報じるテレビ番組「ハートネットTV 忘れじの大熊町」(NHK)が報じられました。

(3月8日(水) 午後8時00分)

午後8時30分)



ユニット型グループホーム

「もみの木苑」

画面に映し出された入居者お一人

お一人のお姿は省略をする

たよりに故郷に帰って来て身を寄せ合った17人の
 お年寄りたち。そして撮影にあたって「写真機を
 向けられると『モデルになったような気がする』と
 はにかむような笑顔からはじまる30分のドラマで
 あった。

その舞台は、東京電力福島第一原発の廃墟が
 残る福島県大熊町の帰還困難区域が残る町に誕
 生をした、認知症の高齢者のためのグループホー
 ム「もみの木苑」。

そこには大熊町の土地を開墾し、作物をつくり
 働き続け。さらには特産の干し柿づくり。そして
 時折集まって楽しんだグラウンドゴルフ。県大会に出
 場をしたときのなどの思い出などを鮮明に語り
 合う姿があった。

しかし故郷に帰ってはきたものの、今なお自宅
 には立ち入ることはできない日が続く。

「父ちゃんは第一原発の守衛」、そして私は代
 行会社のまかない婦として働き勤めは楽しかった
 と語る老婆。しかし、その父ちゃんも避難先で亡
 くなったと。それでも当時の仲間とこうして会え
 るのが嬉しいと語る。

また風呂はドラム缶、そこに小川からの水を汲
 み入れ薪をくべる生活。また大熊町がある双葉
 郡は、他の土地と比べると断崖絶壁が多く「や
 ませ」の影響で作物が育たない時期もあり、豊
 かになれなかった地域であったとの記録がある
 ように、原発ができる前は冬になると男性がみ
 んな東京に出稼ぎに出かけた。しかし原発の建
 設で生活も豊かになったと語り合う。

しかし、12年前の原発事故の記憶を忘れている
 人もいる。その一人である老婆は、夕方になるとい
 つも家に帰るといつて介護士を困らせる。仲間がカ
 ーテンを開け、窓から見える闇の町を見せて「もう
 家はないのだ」と諭す。次の日介護士がその老婆を
 自動車に乗せて我が家があったというところを訪ね
 る。そこには家はなく、わずかに残された門標その
 わきに「カエルの石像」だけが残されている。

そこで「帰るのではなく、もう帰れない」ことを介
 護士は諭す。老婆は手を合わせる。

最高齢の95歳の老婆を避難先から妹が訪ねて
 くるがガラス越しの面会である。妹は姉に「皆に可
 愛がってもらんだよ」と語る言葉に胸がジーンとく
 る。

そして皆さんの合い言葉は楽しかったあの頃の
 話と、最後は「ころり観音さま」とつぶやきである。

しかし、楽しい場面もあった。それは「大熊方言
 大会」である。介護士が読み上げる方言の意味を
 当て合う場面であった。正解に対してはみんなが
 手をたたき笑い合う姿に、いつしかホットした気
 分が与えられたのを忘れることができない。

「忘れ時の大熊町・グループホーム『もみの木苑』
 の物語が、後期高齢者が人口の3割を超えるだろ
 う「2025年問題」を前にして、さらに増大をす
 るだろう「独居高齢者」の晩年をあらためて考えさ
 せられたことを胸に留め、合わせて「トイレのないマ
 ンション」を忘れてならないことを確認したいと思
 う。



……歌を忘れたカナリヤ……

私現在、この6月で89歳。数年前までは社民党の区議会選挙(練馬区)の際には選挙ビラを、夜、各地域の住宅街、その郵便箱に投げ込んでいましたが、社民党から区議選への候補者は出すことも出来なくなりました。現在「社会新報」の購読者であるのみです。残念です。そして本日(5月2日)の東京新聞の「本音のコラム」に鎌田慧(かまた・さとし)氏が、「歌を忘れたカナリヤ」の表題で書いておられました。我々も彼と同様に本当に怒りを覚えます。以下鎌田慧さんの文章を添付いたします。

「歌を忘れたカナリヤ」

五月一日。メーデー。「晴れた五月の青空に、歌声高く響かせて」。若いころよく歌った。「聞け、万国の労働者」もあつた。1886年五月。シカゴの労働者が「8時間労働制」を訴えてストライキ。それが世界的に広がり、いまなお続いている。

最近「労働者の祭典」といわれているが、働く人々が集まり、未来を語り、連帯を確認しあうのは大事なことだ。ところが日本は「分裂メーデー」。全労連と全労協は5月1日に別個に開き、最大組織の連合は4月29日に中央大会開催。

「首相メーデー出席」読売新聞は三段見出し。岸田首相と並んで顔を伏せた芳野友子会長とツースョット。「首相の出席は」大変光栄だ」と会長談話。首相に発言させた。が「立民の泉代表、国民の玉木代表も招待されたが、ひな壇には上がらず、司会による紹介のみで、あいさつする機会もなかつ

た。「ひな壇には上がらず」とあるが、正しくは「上げられず」であろう。二大野党の代表が招待されながらも、発言させてもらえなかった。それでも二人が怒っている気配はない。

労働者の歴史的な集会で首相(与党代表)だけが発言を許され、野党代表の発言はなし。芳野会長は自民党大会に出席する、と物議をかもし、麻生太郎副総裁と会食をしたり。これが、貧困化が進む日本労働運動の現状なのか。

(東京新聞「本音のコラム」より)

65歳以上の約5人に1人が一人暮らし

令和2年(2020年)国勢調査の「人口等基本集計結果」によると、65歳以上で一人暮らしをしている人口は671万7000人。65歳以上人口の約5人に1人が一人暮らしをしています。さらに男性・女性別の一人暮らしの割合は、男性が23万8000人、女性が44万9000人であり、女性の一人暮らしが男性の約2倍であることがわかります。このことは今後とも拡大をすることが予想されます。また一人で生活することが、孤独感を必要以上に感じてしまうことがあります。

「高齢社会を生きるための『知恵と経験、そして言葉』を交換し合うことができないでしょうか。」

「意見、ご提言をお待ちしております。」

(編集事務局より)



報告・提言のひろば



■巻頭の「戦争プロパガンダ」の記事、本当にその通りだと思えます。また、「トイレのないマンション」の記事も興味深く読ませていただきました。「10万年後の安全」は私も観ました。当時とてもショックを受けたことを覚えています。私は東京新聞を購入しているのですが、本日の東京新聞「こちら特報部」のコラムで「ドイツは脱原発を完了、しかし日本は脱原発どころか『原発回帰』の怪です。違いはどこにあるのか?」というテーマを取り上げていました。日独で、「合理的な思考に基づいて緻密な計画の元に必要な変革を実現できるかどうか」に大きな違いがあることもありますが、最大の違いは「政治のあり方」だという結論でした。日本で脱原発を実現するにはまず政治を変えていくことが必要と思います。

■いつも配信ありがとうございます。ゆつくりと読ませていただきました。読み終えて日本の現状がよく解ります。頑張ってください！

■喜多方市議選終わりました。投票率の低下(前回比13%強)に歯止めがかかりません。特に高齢化で「施設入所」の方の投票行動が気になります。当選をした候補者も「高齢」ですが、皆さんからは「元気高齢者」と受け取られています。市町村を超えた候補者擁立に向けた連携がますます必要と感じました。

■今年も「ゴールデンウィーク」がやってきますが早いですね。桜も散り深緑の季節到来然し依然としてコロナ、ウクライナ、政局不安等喜べないのが実感です。特にコロナ対策で第5類に格下げ？然しながら病院対応はまだ不明釈然としません。政府の迷走を映している気がします。岸田支持も右肩上がりの様子、何が原因かは分かりません。先程の衆・参補欠選挙は「4勝1負」。維新の健闘の様も、近畿地方の偏光ではなからうかと思えます。何はともあれ野党の巻き返しに期待します。

■昨日の憲法記念日は有明の憲法集会に行ってきました。色々な意味で例年通りという印象です。組織動員に支えられて一定規模の集会が維持されていて、若い人も見られますが、参加者は私同様、圧倒的にシルバー世代です。組織動員のない市民グループの集会などではもつと顕著で、殆どがシルバー世代で人数もこの10年で大きく減りました。さらに10年後は活動できないグループが増えてゆくことでしょう。この世代の主張をシルバー民主主義と揶揄する向きもありますが、それなら消滅する前に、時間切れになる前に、若者民主主義を見せて欲しいと思います。安保法案成立の時、国会前にはSEALS(シールズ)と呼ばれる若者のグループがありました。その歯切れの良いスピーチとコールを横で聞きながら、まだまだ日本も捨てたもんじやないと思いました。でも、先日の朝日新聞の記事で、SEALSに参加した若者たちがネットで攻撃され脅され、半数以上がSEALSに参加した過去を隠し、もう表立って声を上げることはしないとの

内容にショックを受けました。誰かが意図的にそのような攻撃をしているのか、社会の気分がそうなってしまうたのか、この不寛容さはなんででしょうか。多数と異なる声を上げる若者を叩き萎縮させるような社会に多様性など存在し得ないと思えました。結論もないのに、書き始めると、つい長々と書いてしまいます。今のシルバーが消えてゆく前に、新しい動きが生まれるのだろうかと考えると、気持ち少し重くなってしまう今日この頃です。花粉の季節は終わりましたが、突然、夏のように暑くなりました。なかなか寒暖の変化についてゆけません。軒先で巣作りをしているシジュウカラがここ数日でヒナが巣立ちそうで、それが楽しみです。

■早々とやってきた「夏日」。遅くなった暖房機の片づけを行った。我が家の暖房機はファンヒーター2台、温風暖房機2台がそれぞれ1階、2階にある。昨年までは屋外の物置にまとめてしまってきたが今年は異なつた。それは階段の上り下り、そして物置への移動のきつさに「来年はできないかもしれない」と考え、それぞれの部屋の物入にしまうことにした。加齢を感じることを実感した4月であった。

■ニューズ5月号の読者投稿に、親から譲りうけた土地の利用についての次の文章を読みました。慣れない農作物づくり、しかも有機農業などの勉強をしながらという報告に感銘を受けました。その報告の中で「中略」「隣り合う持ち主たちと協力して営農型ソーラー発電を始めることはできないかしら。そしてソーラーパネルの下には大豆のようなタンパク資源を作ったらどうか?。また繁茂し

た木々は、日照を確保するために伐つて炭にする、その炭の細かいものは土壌改良に利用するなら一石二鳥!などと妄想を膨らませています。土地の来歴を無視して大規模開削をしたり、メガソーラーを作つて土砂崩れのリスクを抱えるようなのはとんでもない話です」とありました。そして今般「傾斜地に太陽光発電施設が相次いで設置され、豪雨災害などによるパネル崩落が懸念されている。また全国の太陽光施設のうち土砂災害警戒区域内に立地し、近くに住宅などが存在するものが²³⁰か所以上もあるという読売新聞の記事を見ました。²³⁰(傾斜地の太陽光発電²³⁰か所、パネル崩落の

リスク・読売新聞オンライン5月14日より)農作業になれない身でありながらも、夢とその開墾にも危険を配慮されている投稿者にあらためて敬意を表します。頑張ってください。

■近くのスーパーで少々の買い物をしてきました。陳列棚に並ぶ菓子類が、1袋、或いは1個の値段が90円台という品物が増えていきます。袋内に詰められて菓子の中身は以前と比べれば割高になっているはずなのですが、何だか100円を切る値段に割安感を覚えたためらいなく3袋買いました。「なんでもかんでも高くなったわねえ」とボヤキながら。そしていつぞやのニューズに「空気がっぱいの袋詰め商品」という記事を思い出しました。

カンパありがとうございました。

読者二名から、合わせて5000円のカンパがありました。